

バイト転々5人養う

ここにいるよ

沖縄子どもの貧困

第2部 親は…(2)

⑩

長く県外で暮らしたサチエ(35)は、夫のDV(家庭内暴力)が原因で離婚し、約5年前、沖縄に帰ってきた。現在、コンビニで働きながら、小1から中2まで5人の男の子を育てている。仕事と育児で1日が目まぐるしく過ぎていく。

県内の農林高校を卒業して、本土の居酒屋チェーンに正社員として勤務した。職場では優秀な本土出身の男性との間に子どもができた。21歳で結婚。夫の暴力は狂燥中から始まり、暴行を繰り返すようになった。夫は口へたで、酒を飲み、口癖を解さずやたらにサチエを殴った。このままでは子どもたちの健康力が及ぶと見え、関係断絶した。別居料や養育費は支払われな

った。夫が外で働くことを許さなかったため、サチエは結婚して10年近く専業主婦で、手持ちの現金ほとんどがなくなった。子どもたちを養うために働かなければならなかったが、末っ子はまだ1歳、その上の2人も幼稚園に上がらない年齢だった。認可保育園に入れようとして役所を訪ねたが「働いていないと入れません」と断られた。認可外保育園は1人3万円以上、3人で10万円近くかかり、諦めた。

余裕がない 時間が欲しい



サチエ(右)と子どもたち。自宅のすぐ近くに公園があるが、一緒に遊ぶ時間がなかなか取れない

飲食店の時給は600円ほどで、出勤時の最低賃金もなかった。店が数カ月後閉店し、次に働いた店は「週知りだったが、クビを恐れて抗議できなかった。余裕がない。時間が欲しい」とつぶやいた。

現在週6日働いて20万の時給も、最低賃金(683円)を

わずかに超える700円。手取りの月収はおよそ8万円ですべての子どもに支給される児童手当、ひとり親家庭に支給される児童扶養手当を加えても、生活費は月20万円。県の貧困基準に基く6人世帯の貧困ライン308万円(世帯)を下回る。食費はなるべく削らないようにしているが子どもたちから「きょうはこれだけ?」と不満の音が上がることもある。外食は年に1回できるかどうかだ。下の2人には発達障がいがある。小1の末っ子は読み書きが苦手なため、ひらがなもおぼつかない。集中力が続かないため、サチエがそばに付きっきりで宿題をさせなければならぬ。考えられるに時間がかかり、午前0時近くまでかかることもある。